

精神科治療学編集委員会

(五十音順)

編集委員

天野 直二 新井 平伊 加藤 敏 兼本 浩祐 古茶 大樹
 鈴木 國文 仙波 純一 堀川 直史 本田 秀夫 松本 俊彦
 宮岡 等 (統計担当)立 森 久照

編集顧問

市橋 秀夫 笠原 洋勇 上島 国利 倉知 正佳 栗田 広
 小島 卓也 融 道男 中井 久夫 中安 信夫 樋口 輝彦
 皆川 邦直 村上 靖彦 山口 直彦 吉松 和哉

編集後記

うつ病の薬物療法の中心が選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) になった。SSRI は三環系抗うつ薬 (TCA) と比べて「副作用のスペクトラムが異なる」と言った方がよいように思うが、一般的には副作用が少ない薬剤と理解されているようである。最近困ったことに出会う。使いやすい薬であると考えて、少しの憂うつ感を認めれば、ちょっとした心理社会的要因への対応で改善しそうなうつ状態に対しても、すぐ SSRI を処方する医師が少なくない。強い副作用があることを意識し、本当に効果が期待できる患者を明確にしようと、診断に力を注いだ TCA の時代とは隔世の感がある。SSRI は、さらに一部の不安障害にも用いられるようになって、うつ状態の中の鑑別診断だけでなく、不安と抑うつの鑑別や合併を検討する場面も減ったようである。

同じことを認知行動療法 (CBT) にも感じることもある。どのようなうつ状態も CBT の適応となるかのように書いてあるテキストが少なくない。どのようなうつ状態にも用いるのであれ

ば、診断を明確にしようと思わないのは当然である。しかし臨床で多様なうつ状態を診ていると「どのようなうつ状態にも効く」という言葉には違和感がある。

SSRI も CBT も適切に利用するには診断を明確にする必要があるし、多くの専門家はそうしているのであるが、一部の人の安易な利用がうつ病診断を曖昧にし、うつ病の範囲を広げているように思う。製薬メーカーが SSRI の販路を不適切に広げるためにうつ病の範囲を広げた (DISEASE MONITORING) と言われることがあるが、CBT もいまやメンタルヘルス産業や一部の医療機関、出版社などの収入源になっているし、CBT のできる心理士を作ることで生き残りを図ろうとする大学があることも否定できない。CBT も DISEASE MONITORING の観点から検討すべき時期であろうか。

さて本号は統合失調症の最新の生物学的研究を取り上げており、本誌としては比較的珍しい特集とも言える。診断が混乱してきた現代に何かを見出したいと思う。(宮岡 等)

精神科治療学

Jpn. J. Psychiatr. Treat.

第26巻 第11号(2011年11月19日発行)

定価: 3,024円 (本体2,880円)

年間購読料: 定価42,483円 (税込み, 増刊号含む)

発行者—石澤雄司

発行所—星和書店

〒168-0074

東京都杉並区上高井戸1-2-5

PHONE 03-3329-0031(営業部)/0033(編集部)

F A X 03-5374-7186(営業部)/7185(編集部)

U R L <http://www.seiwa-pb.co.jp>

© 2011 by Seiwa Shoten Publishers Tokyo. Printed in Japan.

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)星和書店が保有します。

JCOPY ((社)出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。